

1. 気象概況 (中野市長丘地区気象ロボット観測データによる)

月間	旬別	上旬		中旬		下旬		月間		コメント
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
2月	平均気温 (°C)	-1.9	-2.0	2.4	-1.4	2.6	0.4	1.0	-1.0	月間平年比+2.0°C (高)
2月	降水量 (mm)	23.5	15.9	40.0	39.5	27.0	7.6	90.5	63.0	月間平年比 144% (多)
2月	日照量 (h)	52.7	48.5	51.3	43.6	41.7	49.6	145.7	141.7	月間平年比 103% (並)

● 2月特記：最高気温 13.3°C (2/13) 最低-17.3°C (2/7) 氷点下 10度以下 3回 多降雪 20.0mm (2/11) 強風 14.5m/s (2/5)

● 1月特記：平均気温+4.5°C (極高)・最高 13.3°C (1/29) 最低-10.4°C (1/22) 降水量平年比 67% (極少) 降水量 14.0mm (1/5)

■ 上旬 (平年比)：気温 (並) +0.1°C、降水量 (多) 148%、日照量 (並) 109%

■ 中旬 (平年比)：気温 (高) +3.8°C、降水量 (並) 101%、日照量 (多) 118%

■ 下旬 (平年比)：気温 (高) +2.2°C、降水量 (多) 355%、日照量 (少) 84%

2. 生産の経過・病害虫発生状況・今後の対策

【生産特記 2020】

- ① 生産量 2019 (昨対)：もも 85% 和梨 100% 西洋梨 80% ふじ 90% 柿 100% キウイ F120%
- ② 生産基盤 (推定)：ぶどう 350ha・りんご 150ha・もも 88ha・和梨 12ha・西洋梨 6ha・桜桃 11ha・柿 6ha
- ③ 百年ふじ 2020：年間で苗木 1,300 本導入予定 (面積 6ha) ⇒ 2020 秋には苗木導入 6,000 本・面積 30ha 到達予定 (推定)
- ④ ハウスサクランボ：低温積算時間 1000h 到達 12/17、1200h 到達 12/25、1400h 到達 1/2。平年より 10 日程度早く到達。
初出荷 3/25 頃～。全体計画 31 棟 (内、観光 4 棟)、昨年比 5 棟減。
- ⑤ ハウスもも：1 棟。1/8 被覆・加温開始。初出荷 5/1 頃～。(昨年並)
- ⑥ ハウスぶどう：被覆順調に推移。被覆後の生育 (水上がりなど) 早い状況。房づくり講習会 4 月中旬開催予定。
- ⑦ 生育予想 (New)：記録的暖冬で大幅に早まる見込み。開花 もも 4/5 前後 ナシ 4/10 前後 ふじ 4/15-20 頃 巨峰発芽 4/15
- ⑧ 参考 (開花)：もも H28：4/9、H30：4/12 ふじ H28：4/21 H30：4/21
- ⑨ 水上がりは非常に早いと予想される。剪定作業は平年より 2 週間以上早い意識のなかで進める。
- ⑩ 凍害対策：寒の戻りによる凍害遭遇が心配される。幹部のワラ外しはできるだけ遅くまで引き延ばす対策が必要。
- ⑪ 凍霜害：生育の大幅に早い年度は凍霜害遭遇に危険性が非常に高い。防霜対策は万全にし、人工授粉を例年以上に徹底する。
- ⑫ 土壌水分不足による貧弱花や休眠不足による発芽不良が心配される。
- ⑬ 結実確保対策：凍霜害等により結実不良が非常に心配される。人工授粉作業は例年より多めに実施したい。
- ⑭ 【注目】土砂堆積土園地：堆積土が覆っている園地では、窒素吸収量が増加する可能性あり。春の窒素施用は見送り、結実後などに生育が弱いと判断される場合は、必要に応じて追肥で対応する。



【2020 病害虫対策】

- ① **共通：生育が過去最速の可能性大。早期予防散布を大前提に進める。**
- ② 腐らん病：暖冬 (高温) で早期感染拡大。全域で 2 月の時点では異例の広がりを見せている。
- ③ 黒星病：生育の大幅に早い年は早期感染、実害が多い傾向 (H28 等)。発芽 10 日後 (4/1～) から予防を徹底する。
- ④ せん孔細菌病：枝病斑が非常に多い (全域)。薬剤散布と枝病斑除去を併用して防除を進める。
- ⑤ 黒とう病：展葉期から早めの予防散布を徹底。発芽・展葉が非常に早いことが予想されるため散布遅れに要注意。
- ⑥ 晩腐病：病原の除去と予防散布を徹底。昨年多発円園では散布量を多めにする対策を講じる。
- ⑦ シンクイムシ類：越冬量が多いと予想される。特に昨年被害が多かった園では 4 月下旬から薬剤散布を徹底し、盛夏期までに発生密度を高めない対策を講じる。
- ⑧ カメムシ類：山間部を中心に 4 月下旬の早い段階からの加害が心配される。早期特別散布等で順次対応していく。
- ⑨ ハダニ類：生育の非常に早い年は 6 月中旬からの高密度化と盛夏期の多発が心配される。殺ダニ剤の早期散布等で対応する。
- ⑩ スリップス類：早い段階からの発生が心配される。